

アジア航測



海外事業部営業部営業課

谷口 しおりさん
(28歳)

Taniguchi Shiori

海外事業部技術部技術課技師

ラムサル・ダモダールさん
(39歳)

Lamsal Damodar

Check

地理空間情報を基に世界の課題に挑戦する

アジア航測は、衛星から地上まで最先端のセンシング技術による空間情報を基に、地形図の作成だけでなく防災、環境、社会基盤のコンサルティングに取り組む。特に防災と環境分野に強く、東日本大震災(2011年)や熊本地震(2016年)では発生直後に出勤し、集めた情報をいち早く自社サイトで公開したことで知られる。

計測には人工衛星、固定翼航空機、ヘリコプター、レーザーを使った「モービルマッピングシステム」のほか、無人飛行機も使用する。自社航空機6機は東京と大阪に待機し、操縦士・整備士も常時出勤態勢を整えている。国内事業が売上全体の95%を占めるが、中期計画で海外事業は10%程度への拡大を目指している。外国籍の従業員も増員し、2013年にはミャンマー現地法人を設立した。

インフラ建設の基礎となる地図データは、新興

国・開発途上国での需要が拡大しており、同社も地図作成のプロジェクトをコンスタントに受注してきた。それに加えて、気候変動や生物多様性の減少、相次ぐ大規模自然災害の発生や社会インフラの劣化など、さまざまな課題が国内外で顕在化している。そうした課題への対処に欠かせない情報の取得からコンサルティングまで、一貫した技術を有する同社への期待がますます高まっている。



Career Path

ラムサルさん

- Age
- 27 ネパール・トリブバン大学 大学院修士課程修了
- 31 北海道大学大学院修士課程(環境科学)修了
- 34 同博士課程修了
- 36 名古屋大学 環境学研究所研究員
- 39 アジア航測入社

谷口さん

- Age
- 19 早稲田大学理工学部3年次にカンボジア、4年次にベトナムで活動
- 22 早稲田大学大学院創造理工学研究科で修士号(建築学)取得
- 24 戸田建設(株)入社、建設現場の施工監理に従事
- 25 アジア経済研究所開発スクール(IDEAS)入学
- 26 外務省入省(任期付職員/JICA ボランティア事業担当)
- 28 アジア航測入社

company data

アジア航測株式会社
Asia Air Survey Co., Ltd.
〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺1-2-2
新百合トウエンティワン
海外事務所: ミャンマー
創業: 1954年2月 資本金: 16億7,377万円
従業員数: 1,119人(2015年9月現在)
代表者: 代表取締役社長 小川紀一郎
事業分野: 空間情報を活用したトータルコンサルティング

recruitment

新卒採用: あり 中途採用: あり
募集職種: 計測部門/システム開発部門/建設コンサルタント部門/営業部門/管理部門
募集人数: 若干名
TEL: 044-969-7230(代)
FAX: 044-965-2596
E-mail: info@ajiko.co.jp
URL: http://www.ajiko.co.jp/

私の専門分野は、地質学を基盤として環境管理、災害・リスク削減、雪氷、水工学など広範囲に及びます。そうした分野を研究・分析するツールとして、リモートセンシングやデジタル写真測量、GIS・地理空間分析、統計・グラフィックス・プログラミングなど

ど、さまざまなスキルを身に付け、資格を取得してきました。アジア航測では、これまでに習得した技術を生かして活躍し、将来はネパールの氷河湖の調査・防災対策のプロジェクトに参加して氷河湖から発生する災害の防止に貢献したいと思っています。

母 国ネパールの首都カトマンズにあるトリブバン大学理学部を卒業し、同大学院では地質学を修めました。その後、日本留学の機会を得て、北海道大学大学院で環境科学を研究し、博士号を

取得しました。具体的な研究対象は、氷河の融解によってできる氷河湖です。氷河湖の生成過程と構造を解明することによって、その崩壊時の被害規模を予測し、防災につなげるというのが目的です。

夢は母国ネパールへの貢献

ラムサルさん

社では、高層マンションの施工監理を担当しました。

ます。

大学院修了後に勤務した建設会社では、高層マンションの施工監理を担当しました。4年次からは建築史研究室に所属し、ベトナム・フエにおける世界遺産復原・保存プロジェクトに参加して、王宮建築群の測量調査や関連史料や図面などに関するGIS構築に携わったほか、GPS調査および技術移転を担当しました。

理(現場監督)を担当し、机上では得られない貴重な現場経験をさせてもらいました。国際協力の分野にキャリアチェンジするに当たって、その第一歩として外務省国際協力局に任期付職員として入省し、JICAボランティア事業担当として、青年海外協力隊発足50周年記念式典や広報業務などに携わりました。

建 築学を専攻していた大学3年の時、カンボジアで遺跡清掃活動に参加して以来、将来は日本の技術を途上国の開発に生かす仕事がしたいという目標を持って、さまざまなキャリアを重ねてきました。

アジア航測にはまだ入社したばかりですが、より現場に近い立場で地形図作成や行政の効率化を視野に入れたGIS構築プロジェクトを手掛けていきたいと考えています。

開発協力の現場を目指して

谷口さん